



高校生の頃はやりたい仕事もわからなかった、と当時を振り返る草野良平さん。世界規模で金融危機が発生したときと卒業が重なった。限られた求人数の中、応募したのが建武工業(株)だ。手に職をつけようと入社して11年。まだまだ知らないことが多いと、学びの姿勢を崩さない。そんな草野さんの今後の目標、仕事に取り組む姿勢などを伺った。

●この職業を選んだきっかけ

高校卒業の時に起こったリーマンショックがきっかけです。高校への求人も激減し、仕事を選ぶ余裕もありませんでした。「せつかく土木科に入ったのだから土木職を検討してみては」と先生から助言を受けて、今の会社に応募しました。

入社してからは、測量などは実践でもすぐに役立ちました。けれど、土木用語と内容が合致せず、「何がわからないか、わからない」。そんな状態だったのを覚えています。

●職場の魅力や責務

仕事の魅力や責任がわかってきたのは、入社して4～5年目です。それまでは、先輩について仕事をしていたので、指示された業務に従っていました。そんな中、現場代理人を初めて任せられました。工事は無事に終了し検査の段階で、踏み込んだ質問を受けたときです。スムーズに答えられず成績評価も低かったです。当時の苦い経験です。

これが振り返りの機会になりました。たとえば、資料の整理は見やすく簡潔にする。先輩との仕事を手本にして、覚えていたつもりでした。けれど、自分に落とし込めていなかった。躓きは成長のチャンスと思いなおし、失敗は繰り返さない、強い責任を感じるようになりました。

●仕事のこだわり、ポリシー

「今日できる仕事は、明日まで延ばさない」が基本です。問題を先送りにしても、次の日に解決できるとは限りません。もしかすると、新たな問題も発生する可能性もあります。仕事を効率的に進めるには、さまざまな方法はあると思いますが、ひとつひとつ丁寧になす。それが、結果的に安心安全の積み重ねにつながり、利用者の信頼を得られると思っています。

担い手シリーズ 15

「手に職」を意識して 飛び込んだ世界 苦い経験も成長の糧

草野 良平 入社11年目(工務部)
建武工業 株式会社



●仕事上で印象的なエピソード

砂防の工事用道路に関わった出来事が忘れられません。急斜面の移動に疲れました。たとえば、ひとつ忘れ物があると、取りに行かなければならない。一度や二度なら問題ないのですが、長期に渡る現場でしたので「きついなあ」と初めて感じた現場です。

有明海沿岸道路の橋梁舗装工事完了時に見た景色も感動的でした。次世代まで伝わる仕事を、やり遂げた達成感。違う職業に就いていたら、絶対に見ることができません。改めて、社会インフラに携わる意味の重さや責任を考え直しました。

●今後の目標

建設工事は、オーダーメイドです。工法は同じでも、現場の環境、季節、住民対応などが違えば技術や工事の難度も変わります。だからこそ、ひとつでも多くの現場に立って、経験を積みたいと思います。

今後の目標は、1級土木施工管理技術者試験に合格することです。そして監理技術者として会社に貢献したいと思っています。自分自身のスキルアップも重要ですが、有資格者になると会社が受注できる仕事も増えます。そうなること、さらに大きな仕事にも挑戦できる。まだまだ、未体験の現場がありますので、日々の勉強は続きます。



草野 良平(くさの りょうへい)
福岡県久留米市出身。福岡県立浮羽工業高等学校 土木科卒業。平成22年4月建武工業(株)入社。
建武工業株式会社
839-0817 久留米市山川町1643-7
TEL:0942-45-6255/ FAX:0942-45-6277

<https://kenmu.co.jp/>